

4日目 (8/20・火)

グループ発表「私たちが考える理想の社会」

個人発表「田川飛翔塾を経て自分はどうなりたいか」

4日間の合宿研修での講義・グループワークなどを通して学んだことの集大成としてグループ発表を実施しました。関係者及び保護者の前で堂々とした様子で発表していました。課題設定・目標設定・解決策・行動目標・プレゼンの項目で評価をし、最優秀グループを選びました。



優勝チームの**美少女**

グループ紹介

美少女 不登校生徒の出張勉強所

チーム**日本** SNSを活用して不登校問題の解決

元気朝陽 いじめ問題をいじめる側からのサポート

ハンバーグを箸で食べるよチーム 熱中症を防ぐには

まっきん 地域での交流を増やす

優勝チーム「美少女」は、社会問題を「不登校の生徒が増加している」ことで課題設定し、「不登校で無気力な生徒が減ること」と理想を置きました。解決策として、「迎えに行くCAR!」で不登校の生徒のところにキャンピングカーで出向き、一緒に勉強する環境づくりを提案してくれました。課題が中学生から見てもとても身近で、「解決をしたい!」という気持ちが伝わってきたのと、課題の要因をしっかりと掴み、今までにない斬新なアイデアを提案したという点が評価されました。



卒塾宣言

「田川飛翔塾を経て自分はどうなりたいか」
一人一人が自分の将来と向き合いました



卒塾式

3泊4日の仲間から、一生の仲間へと
中学2年生の夏に経験した体験はいつか
自分の大きな糧になることでしょう!

塾生に聞いた今回の研修の点数

100点

新しい知識や
気づきをたくさん
得ることで、
成長できた。

100点

自分の悪いところ
を改善できたし、
リーダーをして
少しは成長できた
と感じたから。

90点

たくさんのことを
学べたけど、
自分の発言を
増やしたかった。

100点

ほぼ初対面の中でも、グ
ループワークではたくさ
ん意見を言い合ったりま
とめられたり、最終的に
素敵な発表ができた。

85点

今回のことでたくさん
学んだけど、まだ何か
を吸収して学ぶことが
できるかもしれない。

100点

自分らしく
色々なこと
を覚えた

田川飛翔塾を通しての自己評価

塾生の平均 **95.6** 点

100点

とてもいい体験にな
った。何事にも全力
で取り組むことが
できた。

100点

今まで分からなかった
「自分の強み」が分
かって上手く活用でき
た。今後の目標を決
められた。

100点

自分が
人間として
大きくなれた

100点

グループワークや
話を聞いて、自分が
成長できたし、これか
らどう行動すればいい
か理解したから。

99点

本当に楽しくて
たくさんのことを
学べたけど時間が
過ぎるのが早すぎて
寂しいから99点。

100点

自分の
目標として
いたことが
達成できた。

塾生の今後の目標

pn

思考について

- 自分の考えを必ず持つ
- 振り返って課題を持つ
- ネガティブな気持ちの時、**逆転の発想**でポジティブに変える
- SMARTを意識した目標を作る
- 相手の立場になって発言する
- 自分の意見をしっかり伝え相手の意見も受け入れる
- 様々な角度から物事を見るようにします
- 考察力を高める
- 何かをするときは**具体的な目標**を設定する
- 友達の見解も自分と同じくらい大切にす
- いろんな視点から物事を見る
- チームメンバーと協力する
- **オリジナルな考え**を持ち課題解決をする
- 教わったことを、自分の身になるように振り返る

行動について

- 相手によって**コミュニケーションの取り方**を変える
- 今後の学校生活などで**積極的な発言**をする
- 考える時間よりも**動く時間を多く**する
- PDCAを繰り返していきたい
- タイムスケジュールをしっかりと作って、**効率的に物事を終わらせる**
- 解決法をしっかりと考えて、**アイデアを生み出したり**する
- 難しいことでも**最後まであきらめず**に行動する
- 自分の**強みを生かせる**ような行動をする
- 自分にできるか迷っても、**とにかくやる**ようにする
- 誰とでも**積極的にコミュニケーション**をとる
- 自分から**積極的に意思**を伝える

その他

- いやな環境になっても、その環境を**楽しめる**ように工夫したい
- 文章力がついたので、**作文を書く**とき簡潔にかく
- **分析して課題を解決**していきたい
- **トラブルが発生**しても**柔軟に対応**する



講師紹介

松尾 利彦 氏（松尾製菓株式会社 顧問）



1952年福岡県生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科卒。その後、米国の大学に留学。1977年、松尾製菓株式会社へ入社。1991年、3代目代表取締役社長に就任。2004年、松尾製菓の企画・販売部門を独立させ、チロルチョコ株式会社を設立、代表取締役社長に就任。2017年5月より同社会長となり、2024年より同社顧問に就任。

佐野 麻由子 氏（福岡県立大学人間社会学部 教授）



2006年3月立教大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程修了。博士(社会学)の学位を取得。お茶の水女子大学非常勤講師、フェリス学院大学非常勤講師、立教大学社会学部助教等を経て2012年10月に本学着任。専門は国際社会学。ネパールのジェンダー、開発をテーマに研究行っている。

行平 史門 氏（田川産業株式会社 代表取締役）



福岡県田川市生まれ。5歳まで父の仕事でシンガポールへ移住、高校卒業後早稲田大学商学部へ進学し在学中は半年間のアメリカ留学を経験。2010年西日本シティ銀行へ就職。個人営業、法人営業を経験し、2015年に退社。夫婦で世界一周旅行へ行き、帰国後の2016年田川産業へ入社。2024年から同社の代表取締役として新たなステージを切り開いている。

青柳 考哉 氏（一般社団法人Local Education 共同代表理事）



九州産業大学美術学部卒業後、アルバイトで生計を立てながらバンド活動を始め、2010年春、上京。(株)博報堂プロダクツでTV-CMを始めとする映像制作に携わる。2013年、右脳事件(株)に入社。映像を始めとするコンテンツ制作の企画営業を務める。父親が他界したことをきっかけに地元福岡県田川市にUターンし地域を盛り上げる仕事をしている。

日高 将博 氏（7世代CAMP 代表）



立命館大学在学中の卒業旅行で、中国のハンセン病隔離村でのワークキャンプを体験。最初に就職した商社を退社後、ハンセン病隔離村で活動するため、中国のNGOに所属。その後、福祉事業や国際協力事業を主に行なう、公益財団法人・日本財団に勤務し、2022年に地元福智町でキャンプ場を運営している。

アンケート結果

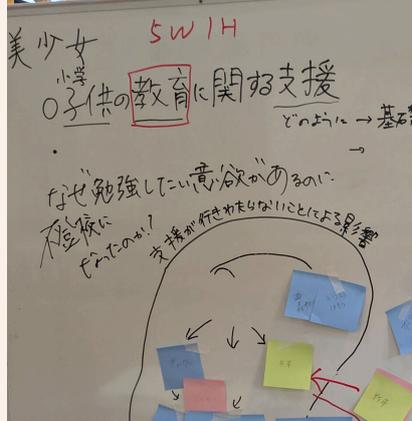
成果確認シート

参加生徒がプログラムを通してどのような点を向上させることができたか把握するため、以下のとおりアンケートを実施しました。

- プログラム初日と最終日に、同様の質問に回答してもらった
- 5項目(共感される力、自己肯定感・自己効力感、コミュニケーション、目標達成、考える力)について、参加前後で向上するかどうかを調べた
- 1つの項目に対し4つの質問で構成し、1～4の4段階で評価(4が最高評価)
- 質問例
共感される力 何かしてもらったらすぐに「ありがとう」と感謝の言葉を伝える
自己肯定感・自己効力感 自分の長所や強みについてよくわかっている
コミュニケーション 話を聞くときは、目を見て聞き、意識してうなずいて聞いている
目標達成 目標に向けた自分の考えや計画をみんなに示すことができる
考える力 新しい企画やアイデアを生み出すことが好きだ

地域	項目	共感される力	自己肯定感 自己効力感	コミュニ ケーション	目標達成	考える力
	田川		3.57→3.88 (+0.31)	3.10→3.43 (+0.33)	3.22→3.59 (+0.37)	3.10→3.54 (+0.44)





田川飛翔塾

田川地域未来の地域リーダー育成プログラム実行委員会

